



平成22年6月9日

各位

会社名 日本アジアグループ株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長 山下 哲生  
(東証マザーズ 証券コード3751)  
問合せ先 取締役 経営企画本部長 加藤 伸一  
TEL (03) 3211-8868 (代表)  
Website <http://www.japanasiagroup.jp/>

### 平成22年4月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年12月10日に公表しました平成22年4月期（平成21年5月1日～平成22年4月30日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正について

平成22年4月期通期連結業績予想の修正(平成21年5月1日～平成22年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 85,000	百万円 △1,900	百万円 △900	百万円 3,000	円 銭 1,783.29
今回発表予想(B)	82,782	△2,981	△2,864	3,404	2,023.46
増減額 (B-A)	△2,218	△1,081	△1,964	404	240.17
増減率 (%)	△2.6	△56.9	△218.2	13.5	13.5
(ご参考) 前期実績 ※(平成21年4月期)	39,200	308	705	△1,513	△958.46

※決算期変更により変則的に6ヶ月決算となっております。

#### 2. 特別利益および特別損失の計上ならびに連結業績予想修正の理由

世界的な金融危機や景気の停滞感・円高の進行などが見られ、各国の景気対策の下支えをはじめ、新興国の経済の改善などによる押し上げ効果もあり輸出や製造業の一部に回復の兆しが見受けられたものの、厳しい雇用・所得環境を背景に個人消費は低調で、設備投資も依然として慎重な姿勢が続くなど、全般的には厳しい状況で推移しました。

このような経営環境の中で、当社の金融サービス事業は、株式市場は戻りを試す展開となりましたが年度後半にかけては調整局面を見せ、欧州を中心とした海外金融不安から為替も不安定な動きとなり、急激な円高と市況の低迷から先行きに対する厳しい見通しなどの影響を受け業績予想を下回りました。

技術サービス事業におきましては、生産効率の向上や原価低減に向けた社内体制の整備を推進し、一定の効果を確保しましたが、欧州および日本での太陽光発電などの新規事業推進のための人員増強ならびに先行投資の実施や内部統制強化を図ったこと、また、急激な円高に伴う為替差損や持分法適用会社の業績下振れなどの減益要因が発生したことなどにより、当連結会計年度における営業利益は2,981百万円の損失、経常利益は2,864百万円の損失となり、予想を大きく下回る結果となりました。

しかし、当期純利益は、連結子会社の日本アジアホールディングズ株式会社による匿名組合の早期解約に伴う精算特別利益（11,695百万円）および投資有価証券売却益、負ののれん償却額などにより特別利益が12,928百万円計上となりました。一方、当社グループの中長期的な将来を見据えた、グループ内の再編による企業再生事業の各社の譲渡にかかる損失およびのれん償却額、減損損失などにより特別損失が6,958百万円発生しましたが、平成21年12月10日の公表予想を400百万円ほど上回り当期純利益は3,404百万円となりました。

以 上

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報による判断に基づき作成したものであり、実際の業績はこれらの予想と異なる場合がありますことをご承知おき願います。